

令和 6 年 度

事 業 計 画 書

令和 6 年 4 月 1 日から
令和 7 年 3 月 3 1 日まで

公益財団法人日本習字教育財団

目 次

(令和6年度事業計画書)

一． 書道の通信教育及び実習指導.....	1
1． 通信教育.....	1
2． 実習指導.....	4
3． 教室開設促進.....	5
4． 教室への新入会者並びに教室の学習活動支援	5
5． 書道用具の頒布.....	6
6． W e bサイトの運用.....	7
7． 習字の日.....	7
8． 展覧会の後援及び書道展の支援	8
9． 文化講演会の開催.....	8
二． 書道に関する展覧会の開催.....	8
1． 書道展の開催.....	8
2． 席書大会の開催.....	9
三． 書道に関する機関誌その他の出版物の発行.....	10
四． 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開	10
1． 書道文化に関する調査研究.....	10
2． 中国を中心とする書画資料その他文化資料の調査及びその展示公開	11
3． 教育・文化施設の運営.....	11
五． 書道に関する教育・研究機関への助成.....	12
六． その他本法人の目的を達成するために必要な事業.....	12

一. 書道の通信教育及び実習指導

1. 通信教育

(1) 教材と内容

各コース、手本（教材）及び指導者向けに学習指導書「教師月報」を配付する。児童・生徒対象として学年別に9種類、成人（高校生を含む）対象として学習目的別に10種類のコースを開講する。また、機関紙「日本習字だより」と「たのしい習字」を配付する。成人対象の書写技能基礎講座（楷書編・行書編）・書道臨書講座（楷書Ⅰ・楷書Ⅱ）は社会教育法第51条に基づく文部科学省認定社会通信教育として開講する。

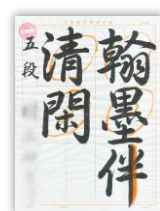
各コース、段階に応じて、字形、用筆、まとめ方等を学習する。幼児は線遊びからひらがなを学習、小学1年ではひらがなを主体に学習、小学2年からは漢字を織り交ぜた課題に取り組む。また小学校高学年及び中学校段階では書写力に加えノートや手紙等、日常生活に必要な知識を学習する。成人においては字形、線質の多様性、書道に関する歴史的背景やその発展過程を学ぶ。また新教材の開発と日本習字臨書部改訂の準備に入る。



(2) 学習方法

教室で指導を受ける、あるいは通信指導で学ぶいずれかのスタイルを選ぶことができ、学習システムは手本（教材）の4月号から翌年3月号までの年度受講が基本単位、4月号をスタートとし徐々にステップアップしていくよう学習課題を組む。

学習サイクルは、受講申込→教材配本→学習後、課題提出→添削、質問への回答→返送を1か月サイクルで繰り返して学習する。臨書部の添削については希望者のみ行う。また書写技能基礎講座、書道臨書講座については最終課題提出時に修了試験を行う。



(3) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	日本習字幼児部	1 2 か月
2	日本習字小学 1 年	1 2 か月
3	日本習字小学 2 年	1 2 か月
4	日本習字小学 3 年	1 2 か月
5	日本習字小学 4 年	1 2 か月
6	日本習字小学 5 年	1 2 か月
7	日本習字小学 6 年	1 2 か月
8	日本習字中学 1 年	1 2 か月
9	日本習字中学 2 ・ 3 年	1 2 か月
1 0	日本習字漢字部	1 2 か月
1 1	日本習字かな部	1 2 か月
1 2	日本習字ペン部	1 2 か月
1 3	実用書道くらしの書	1 2 か月
1 4	日本習字臨書部	1 2 か月
1 5	書写技能基礎講座〔楷書編〕(文部科学省認定)	6 か月
1 6	書写技能基礎講座〔行書編〕(文部科学省認定)	6 か月
1 7	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5 か月
1 8	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4 ～ 1 2 か月
1 9	書道臨書講座【隷書】	3 ～ 6 か月

(4) 副教材

技能習得のための副教材として、日本習字模範揮毫DVD(幼児・小学・中学部、漢字部、かな部)、及び「日本習字臨書部」模範揮毫DVDを毎月発行する。日本習字漢字部条幅課題拡大手本を年2回発行する。

(5) 資格認定

ア. 段級位の認定

(ア) 会員の課題出品に対して各コースそれぞれの基準に従って審査し、段級位を認定する。

(イ) 漢字部昇段試験を実施する。

受験有資格者に対し、六段位、七段位、八段位の昇段試験を7月に実施する。

(ウ) 臨書部昇段試験を実施する。

受験有資格者に対し、半紙・条幅各初段～五段の昇段試験を5月、9月、令和7年1月に実施する。受験有資格者に対し、六段位、七段位の昇段試験を7月に実施する。

(エ) 生徒部八段位昇段試験を実施する。

受験有資格者に対し、昇段試験を7月、11月、令和7年3月に実施する。
合格者は特待生として成人対象手本も受講できる。

イ. 「くらしの書」実力の認定

受験有資格者に対し、実力認定試験【初級】・【中級】・【上級】を4月に実施する。

(6) 認定証の発行

ア. 所定の段級位合格者に対し、本人の申請により、認定証を発行する。

イ. 「くらしの書」実力認定試験の合格者に対し、本人の申請により、認定証を発行する。



(7) 免許状の発行

免許状取得資格者に対し、本人の申請により、免許状を発行する。



(8) 合格之証の発行

ア. 漢字部六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により、合格之証を発行する。

イ. 臨書部六段位、七段位の合格者に対し、本人の申請により、合格之証を発行する。



(9) 雅号之証の発行

雅号を希望する者に対し、雅号之証を発行する。

(10) 表彰

文部科学大臣表彰〔文部科学省認定社会通信教育修了者表彰〕（主催＝文部科学省・一般財団法人社会通信教育協会）において、通信教育受講者の中から特に優秀な成績の者を表彰する。

2. 実習指導



本法人研修施設及び全国各地において、日本習字各手本（教材）を中心とした講座を開催し、学習環境と指導者同士の交流の場を提供する（延べ開催回数：793回）。令和6年度は、学習目的や段階に応じた講座をより選択しやすいよう全講座をリニューアル。また講座申し込み方法のWeb化をオンライン講座から順次開始予定。

（1）東京研修所

漢字、条幅、臨書の各コースは基本と応用を分類し通年で開催する。学校教育に対応でき作品制作も学べる講座、教室開設間もない指導者を技術や指導面で応援する講座も開講。また、短期間集中型の講座として6講座を開催する。

（2）福岡研修所

漢字、条幅、かなの各コースは基本と応用を分類し通年で開催する。習字教室開設研修会参加者のフォロー、指導力アップや作品制作に特化した講座も開講する。

（3）沖縄研修所

漢字、条幅の各コースは基本と応用を分類し通年で開催する。かなの基本を学ぶ講座、観梅展作品制作に取り組む講座、ほか短期集中型講座として4講座を開催する。

（4）各地講習会

習字教室開設研修会、漢字部昇段試験対策、観梅展作品制作等、学習目的に応じた講座や教室の活性化を応援する講座をオンライン開催含む延べ274回開催する。

また、海外の習字教室または国内の留学生等を対象にした書道体験イベントを実施し、示範揮毫や作品制作を通して書道文化の紹介・交流をはかり、「日本の書道」の魅力を伝える。

3. 教室開設促進

習字教室開設に関する「教室開設説明会」、教室開設の指導者のために必要な知識、生徒の指導法等を実践的に学ぶ「教室開設研修会」を開催する。新たに教室開設研修会を短期間で受講できる「動画で学ぶ 習字教室の始め方」を開講。さらに、教室開設研修会への参加者募集のためのWeb広告の配信を行い、新規に教室開設する指導者の育成を促進する。

4. 教室への新入会者並びに教室の学習活動支援

書道学習の機会拡大のため、教室への新規入会を目的とした普及活動と、会員が長期にわたり書道学習を続ける教室づくりを目指す指導者に向けた活動支援を実施する。

(1) 「日本習字 特別入会キャンペーン」

各教室での新入会者の獲得を促進するため、入会特典として習字用具を進呈するキャンペーンを行う（参加申込制）。長期継続受講が見込める「小学1年生」に普及ターゲットを絞り、年間を通した募集活動を後押しする。

期間：1月～9月



(2) 教室向け幼児教材の普及促進

「はじめて Labo」「えんぴつクラブ」を使った幼児クラス開設を促進する。習字の指導者だからできる幼児への指導を訴求し、幼児の受け入れに積極的な指導者を増やす。

(3) 「中学部受講促進」

小学6年生に、中学部課題の先行学習機会の提供や、中学部継続受講申し込み特典等の学習支援を行う。



(4) 「教室作品展」開催

教室での日頃の取り組み、学習成果を発表する場となる「教室作品展」は、生徒の学習意欲を高める効果に加え、保護者と親睦を深める絶好の機会でもある。習字教室にとって欠かすことのできない活動の一つである「教室作品展」の開催を推進する。

(5) 「教室イベント」の実施

指導者と生徒のコミュニケーション、生徒同士の親睦の機会となる教室イベントは、教室に通う重要な動機付けの一つとなっている。生徒が教室に通う楽しみ、喜びにつながる教室イベントの提供を行う。さらに、新入会者獲得につながる教室イベントの提供を行う。



5. 書道用具の頒布

会員が教室での指導及び通信学習を通じて書道の技能向上を図る上で、最適な書道用具を提供する。書道用具等は「選定品」「推奨品」「頒布会品」に区分し、それぞれ目的に応じて頒布する。また、会員が学習目的に合わせて活用できるよう、オンラインショップ、用具案内及び用具図書カタログで広く紹介する。



(1) 選定品の頒布

書道の技能向上を目的とした各コースの学習において、課題の履修のために欠くことのできない書道用具（筆・紙・墨・硯等）及び硬筆用具（鉛筆・ペン・用紙等）を選定品と定め、規格指定の品を製造依頼し頒布する。

(2) 推奨品の頒布

選定品以外に会員から斡旋要望があった用具、または書道作品制作及び書道学習に必要となる用具を推奨品として頒布する。

(3) 頒布会品の頒布

年3回実施する特別頒布会において斡旋する用具を頒布会品と定め、文化祭・教室での作品展・イベント向けの額・掛軸・色紙等、展示用品を中心に頒布する。

6. Webサイトの運用

日本習字の紹介や全国の教室検索・受講申し込み・問合せ受け付け、展覧会告知のほか、SNSの活用等広報ツールとして運用する。またWeb広告の配信を併せて実施し、日本習字の認知度アップと新規入会が見込める層への訴求を図る。指導者には、運営に役立つ情報を発信し、各種申し込みを受け付ける専用サイト、指導者・会員向けに用具・図書の申し込みを受け付けるオンラインショップ、博物館「観峰館」のサイトも運用する。



7. 習字の日

日本習字制定の記念日「習字の日（11月2日 いい（11）もじ（2）の語呂合わせ）」に関連して、「手書き文字」のよさや重要性を伝え、その文化を広めるべく各種企画を実施する。

(1) 「手紙をかこう」ツールの配付

手紙やはがきで思いを伝えるツールを習字教室はじめ広く配付し、活用を促す。

(2) 書道イベントへの協賛



書道の未来を担う若者を応援するため、全国高校書道パフォーマンス選手権大会（7月28日開催）へ協賛する。

8. 展覧会の後援及び書道展の支援

福岡矯正管区文芸コンクールをはじめ各種団体等が実施する書道展覧会等に対し、後援・審査等の支援をする。



9. 文化講演会の開催

書道文化や教育に関する聴講講座「特別公開講座」（参加無料）を東京都において開催する。

二. 書道に関する展覧会の開催

1. 書道展の開催

（1）「第13回観梅展」の開催

成人会員・高校生及び特待生会員を対象に自己研鑽の発表の場として作品を募集し、地区展覧会において優秀作品を展示発表する。また、高校生会員及び特待生会員を対象とした賞の新設を計画する。

ア. 募集方法 指導者・会員に募集要項等を配付するとともに、機関紙、Webサイト等に開催告知を掲載する。

イ. 募集期間 8月1日～9月17日

ウ. 出品料 半切・茶掛 5,000円（前回4,000円）

全紙・連落・全懷紙 6,000円（前回5,000円）

※高校生・特待生会員は半額、表装料は別途必要

エ. 募集見込点数 2,800点

オ. 審査 観梅展審査委員会

カ. 地区展覧会 全国5会場 ※いずれも令和7年

開催日	展名	会場（開催地）
（未定）	京都展	京都市勧業館（京都市）
2月23日	福岡展	FFBホール（福岡市）
3月23日	東京展	国際ファッションセンターKFC Hall（墨田区）
（未定）	沖縄展	沖縄書道会館

(未定)	札幌展	札幌市民ギャラリー
------	-----	-----------



(2) 第10回公募日本習字硬筆展の開催

日常生活に密着した硬筆学習への興味や意欲を持ってもらうために、広く一般から作品を公募し優秀作品を機関紙、Web展及びWebサイト等で発表する。



【Web展】

- | | |
|-----------|--|
| ア. 募集方法 | 書塾及び書道関係者に募集要項を配付するとともに、開催告知を一般紙、機関紙、Webサイト等に掲載する。 |
| イ. 募集期間 | 8月1日～9月17日 |
| ウ. 後援 | 文化庁ほか |
| エ. 出品料 | 幼児、小学・中学・高校生 500円
成人（大学生含） 1,000円 |
| オ. 募集見込点数 | 54,000点 |
| カ. 審査 | 日本習字硬筆展審査委員会 |
| キ. 作品発表 | 機関紙、Web展、Webサイト等 |

2. 席書大会の開催

(1) 「第25回日本習字全国席書大会」の開催



書を学ぶ児童・生徒、成人が一堂に会し、日頃の練習・鍛錬の成果を発揮し、その技能を競うとともに、技量面・精神面の向上、成長を図ることを目的に開催する。

また、福岡会場はオンラインで国内外をつなぎ開催する。

ア．募集方法 全国の教室に募集要項を配付するとともに開催告知を機関紙に掲載する。

イ．開催日・会場 6会場 ※いずれも令和7年

開催日	大会名	会場（開催地）
1月5日	神戸大会	神戸常盤アリーナ（神戸市）
1月12日	名古屋大会	名古屋国際展示場（名古屋市）
1月13日	福岡大会 オンライン	福岡国際センター（福岡市） ※オンライン同時開催
1月（未定）	札幌大会	（未定）
1月（未定）	東京大会	（未定）
1月5日	沖縄大会	沖縄市体育館（沖縄市）

ウ．参加料 小学生～高校生 1,000円、成人 2,000円

エ．参加者見込数 2,500名

オ．審査 日本習字全国席書大会審査委員会

カ．作品発表 優秀な作品を機関紙、Webサイト等で発表する。

三．書道に関する機関誌その他の出版物の発行

学習効果を高めるため補助教材として出版物を発行する。主な出版物は次の通り。

- (1) 「漢字部昇段試験受験ガイド」
- (2) 「だいすき！ひらがな」
「ひらがな練習帳（五十音）・（ことば）」
- (3) 「日本習字漢字練習帳」
- (4) 「生徒部八段位受験ガイド」
- (5) 「えんぴつクラブ」
- (6) 「はじめて Labo」



四．文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開

1．書道文化に関する調査研究

博物館観峰館の収蔵資料等を調査研究する。

- (1) 館蔵中国書画等に関して他館・大学等の研究機関と連携し共同研究を行う。
- (2) 収蔵資料のデータベース化を継続する。
- (3) 『観峰館紀要』19号を発行する。

(4) 収蔵資料の保存活用のため資料の修復を行う。



2. 中国を中心とする書画資料その他文化資料の調査及びその展示公開

博物館観峰館の収蔵資料等はWebサイト(バーチャル観峰館等)も活用し展示公開する。



(1) 常設展示

書の歴史と硯、「避暑山荘」再現展示、著名石碑の復元展示、原田観峰の書、西洋アンティーク。

(2) 企画展示

ア. 春季企画展「書のみかた一線・形・文一」

4月13日～6月9日

イ. 夏季企画展「夏休み子ども博物館」(仮)

6月29日～9月1日

ウ. 特別企画展「滋賀限定！近江ゆかりの書画～古写経から近代書まで～」(仮)

9月21日～11月24日

エ. バーチャル観峰館の公開(春・夏・秋・休館中)

オ. 書院展示室でのギャラリー展示・施設貸与による展示



(3) 館外展示・展示資料の貸出

博物館・関連機関等から要請に応じ、収蔵資料の館外展示・貸出を行う。

3. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の運営並びに各種体験学習教室、博物館イベントを開催する。

(1) 概要

ア. 開館日数 162日

イ. 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、展示替え期間、11月25日～令和7年3月31日(かきぞめ関連行事・施設貸与期間は

開館)

ウ. 開館時間 午前9時30分～午後4時

エ. 入館料 一般1,000円、高校・学生800円、小・中学生無料
※特別企画展等の入館料は別途設定

オ. 入館無料日 国際博物館の日、習字の日等

(2) 書道に関する体験学習教室の開催

瓦当拓本教室／石碑採拓教室(随時開催)／土曜講座

(3) 各種イベントの開催

ア. ギャラリートーク、土曜講座、講演会、オルゴール鑑賞会等を開催する。

イ. 第29回観峰館かきぞめ大会

(4) 博物館学芸員実習生の受け入れ(8月上旬 定員6名)

(5) 地域の教育機関と連携した学習機会の提供と博物館での
授業の受け入れ

(6) 文化行事や作品展・教育活動等への施設貸与

(7) 社会教育事業として教育機関等への出講



五. 書道に関する教育・研究機関への助成

未来を担う書道・習字の指導者を育成するという思いのもと、学習意欲が高く、学業・人物ともに優秀かつ健康な学生であって、経済的な理由により修学が困難と認められる学生に対して奨学助成を目的とした奨学金制度の創設に向け、検討と準備に着手する。

六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業

当該年度は計画なし